

2018年05月22日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【北朝鮮問題では、一喜一憂しない】

米朝首脳会談は、6月12日にシンガポールで開催される予定になっている。

この日程と開催地が発表されて以降は、しばらくの間、北朝鮮の非核化に楽観的な雰囲気が広がっていた。

ところが、北朝鮮は、米韓の合同軍事演習にクレームを付けて、予定されていた韓国との閣僚級会談を一方向的にキャンセルした。

このところの報道では、平和に向かって、非常に安易な論調が目立っていたのだが、北朝鮮の態度が急変したことで、先行きに不安が出てきている。

北朝鮮が、強気に出ている背景には、中国の後ろ盾があることが推量される。

北朝鮮が、単独で米国と交渉する場合は、様々な意味で、北朝鮮と米国の国力の差は歴然としている。

しかし、中国が北朝鮮に加担するのならば、事実上は、中国と米国といった二つの大国が交渉に当たることになる。

米国としても、直接、中国と軍事的な対立は避けたいところだろう、と推量する。

また、北朝鮮が、韓国との閣僚級会談をキャンセルした後の米国の反応を見ると、ボルトン大統領補佐官が主張していた「リビア方式」を、トランプ大統領自らが否定するなど、米国から北朝鮮への歩み寄りが、顕著に映る。

ここにきて、トランプ大統領が、米朝首脳会談を切望している様子が鮮明になった。

トランプ大統領にとっては、今年の11月に実施される中間選挙を有利に戦うために、「北朝鮮の非核化」を実現することは、最重要課題であることがあぶり出された格好だ。

つまり、6月に予定されている米朝首脳会談は、11月の中間選挙に向けての、最大の政治ショーと言える。

先ごろのトランプ大統領の演説では、周りから、「トランプ大統領にノーベル平和賞を」と言われて、トランプ大統領は、まんざらでもない表情を浮かべていた。

トランプ大統領の下心が、丸見えになった瞬間だ。

現時点で、北朝鮮が、米朝首脳会談をキャンセルするとは考えていない。

しかし、米国が北朝鮮に要求してきた高いハードルは、今回の北朝鮮の外交工作で、一段下げられた、と言って良いだろう。

まだ、6月12日まで、3週間もあるのだから、これから、北朝鮮が、さらに、何かしらの外交工作を仕掛ける可能性もあり得る。

また、一方で、トランプ大統領側で、何かしらの対応策を出す可能性もあり得る。

「北朝鮮問題」に関しては、事前に、安易に判断することは避けて、実際の会談を待ち、その成果を見る必要がある、と考えている。

その成果にしても、6月の米朝首脳会談で、得られるとは限らず、交渉が続く可能性も否定できない。

だから、「北朝鮮問題」に関しては、一喜一憂せず、安易に楽観的にもならないように、自ら律する必要がある、と考えている。

+++++

(2018年5月22日東京時間13:45記述)